

## 用途・応用分野

- ・ 効率的・快適なオンラインコミュニケーションの実現
- ・ コミュニティ最適化の自動化
- ・ SNS疲れ緩和

## 本技術の特徴・従来技術との比較

- ・ SNSは、多様な人物を匿名でつなげる、コミュニケーションの可能性を広げ視野を広げ得るものである。一方、相手の意図の邪推、自身の状態に関わらず来る情報、望まない量や頻度のコミュニケーション、などの問題をはらむ
- ・ ユーザ間のつながりの最適化、および、各メッセージのフィルタリングや補正により、ユーザのストレスを減らしたりコミュニケーションを適切に有益にできることが期待される

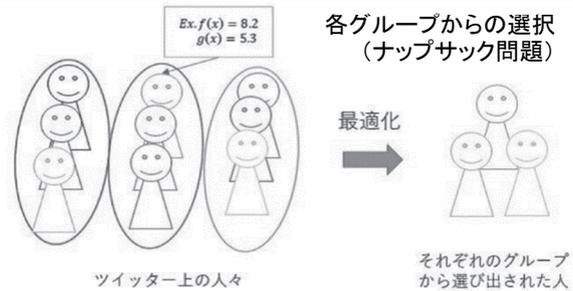
## 技術の概要

### 【ナップサック問題的に適切なバリエーションで コミュニティを最適化し形成する】

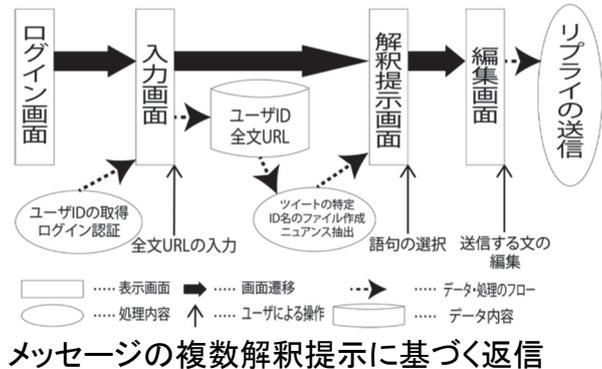
- ⇒ 気分がよくない症状のユーザが、様々な気分状態のユーザとストレスが低い形で繋がる
- ⇒ 一般的な知識を得たい時に(例:サッカー)、知識カテゴリの異なるユーザと少しずつ繋がる

### 【メッセージのフィルタリング・複数解釈提示】

- ⇒ 投稿時に問題のあるキーワードをフィルタリングし和らげる表現に置き換えるモジュール
- ⇒ メッセージの意味に介在する曖昧性を利用
  - ・ 受信時に類似単語を複数提示し、ユーザに解釈を委ねる
  - ・ 返信時にユーザの解釈(選択)を含めるをフィルタリングし和らげる表現に置き換える



### 適切なバリエーションでのコミュニティ最適化



## 特許・論文

### <論文>

- ・ 伊藤, 米澤. 気分障害に適したtwitter上コミュニケーションの最適化手法の検討. 信学技報, vol. 118, no. 487, pp. 25-30, 2019.
- ・ Y. Okada, N. Itoh, T. Yonezawa. Optimal community-generation methods for acquiring extensive knowledge on Twitter. HCI2021. to appear, 2021.
- ・ 岡田, 小山田, 米澤. 複数解釈ニュアンス提示に基づく返信によるTwitterコミュニケーションの提案. vol. 121, no. 37, HCS2021-2, pp. 5-10, 2021.

## 研究者

米澤 朋子  
総合情報学部 総合情報学科  
米澤研究室

